

# 富山大学 学報



(題字 大井信一 学長)

## 第281号

### 目 次

学 長 告 辞……………	2	昭和61年度富山大学卒業証書, 修了証書並びに 修士学位記授与式の举行……………	9
昭和61年度富山大学卒業証書, 修了証書並びに 修士学位記授与式 学長告辞……………	2	人 事 異 動……………	12
関 係 法 令……………	3	学 内 諸 報……………	18
学 内 規 則……………	4	人文学部長の改選……………	18
富山大学学則の一部改正……………	4	学生部長の改選……………	18
富山大学経営短期大学の廃止に伴う関係規則 等の整理に関する規則の制定……………	5	退職(予定)者を囲む懇談会……………	19
富山大学経営短期大学の廃止に伴う関係細則 の整理に関する細則の制定……………	6	海外渡航者……………	19
富山大学公開講座規則の一部改正……………	6	学内レクリエーション〈囲碁大会〉……………	20
富山大学と民間等との共同研究取扱規則の一部 改正……………	7	寄 稿 〈クロズビーの意見〉……………	20
諸 会 議……………	7	職 員 消 息……………	23
学 事……………	8	主 要 行 事……………	25
昭和62年度富山大学入学者選抜について……………	8	資 料……………	27
		昭和61年度卒業(修了)者数……………	27
		昭和62年度授業日程表……………	28

## 昭和61年度 富山大学卒業式学長告辞

ただいま、卒業証書、修了証書あるいは修士学位記を授与されました1,270名にのぼる諸君は、富山大学における所定の課程を終え、本日ここにめでたく卒業の日を迎えられた方々でありまして、教職員一同心から祝福を申しあげます。諸君の喜びもさることながら、諸君を今日まで育てられた御父兄の方々のお喜びはさぞかしと推察致します。



さて、諸君の中のほとんどの人が16年以上におよぶ学校教育に別れをつける時が来たわけでありまして。社会全体の教育的機能の中で学校の役割はきわめて重要であります。それは人生のはやい時期に、組織的、系統的に教育を受けるため、学校教育は諸君の勉学や人間形成の上にはかりしれない影響を与えたものと思えます。特に自己の意志と責任において自由闊達に勉学や課外活動に打込んだ大学の4年間は諸君の将来の展望に何らかの指針を与えたものと確信しております。然しながら、人生の中で在学している期間より卒業後の方がはるかに長いし、ますます高度化する社会や拡大変貌しつつある産業、経済活動に対処していく社会人または職業人としては、学校教育だけでは不十分で今後一層の研鑽が必要であります。学窓を去るに当たって、新たな目標と不退転の決意を持って生涯学習社会へ出発して下さい。

ところで、我国産業はいま急激な構造転換の最中でありまして。御承知のように鉄鋼、造船、石炭などかつて我国の基幹産業として高度成長をさ、えてきた、いわゆる重厚長大型産業が事業の縮小、転換、経営の多角化を迫られております。1973年の第一次オイルショックのあと世界的に景気が後退して以来、低成長経済が定着すると共に、需要の変化や技術革新などによ

り労働集約型である第二次産業、中でも素材部門が次第に後退し、エレクトロニクスやメカトロニクス等を中心に知識集約化が進んでおりましたが、急激な円高により追うちにより深酷な事態に至りました。内需拡大、雇用対策や地域経済の活性化などが強く求められております。

戦後40年、我国の復興の歴史は一言で言えば、平和と民主主義の定着と科学技術の発達であると言えましょう。1960年から70年代にかけて、めざましい科学技術の進歩、発展が経済の高度成長をもたらしましたが、今日ではその技術文明が成熟期に達したことが現在の低成長経済と深くか、わっていると言われております。現在、世界は来るべき第五次のイノベーションの波の立ちあがりを待っているところでありまして。その波の主力になるかもしれない新素材、メカトロ、バイオあるいは超電導といった種々の分野で新しい芽が出ていることは事実ですが、今後どれがのび、どれがのびなやむのか、その区別がまだはっきりしないし、そのほかにも新しい技術が出てくるかもわからない。何か大きな変化があると言う予感はあるけれども、まだ現実ではないと言う意味で今は一つの技術文明が成熟して、次の新しい技術文明の展開と経済成長が待たれる段階であると言われております。円高不況で失業率が4%にも達しようとする中で、金融・保険、情報、通信、教育、医療さらにレジャーやファッションを含めた知識・サービス産業（第四次産業か）は、かえって人手不足と言うミス・マッチ現象がおこっています。21世紀には我国産業の動向はどう変わるのででしょうか。近い将来社会の中堅として活躍する諸君の対応が注目される所でありまして。

御承知のように、これまで展開してまいりました明治以来の先進諸国へ追いつく段階は終わったと言うことで、発想の転換や創造性豊かな人材の養成がここ数年来やかましく言われております。これは大変困難なことですが、諸君はこれからあらゆる機会をとらえて自ら考え、表現し、行動する能力の開発にたゆまぬ努力を続けて欲しいと思います。それに関連して我々日本人がまことに不得手だと言われるシステムの物のみかたを身につけて欲しいと思います。我々日本人はディテールすなわち細目を重視する習性が強いと言われま

す。

ディテールをたくさん積みあげさえすれば全体が自然に出来あがる、あるいは全体がわかると思っている人が多いが、これは錯覚であります。例えば、建物をたてる時、必要な資材を全部集めて、それを山積みにして満足するのに似ており、建物の目的に応じて文字通り適材を適所に配置することが大切なのであります。全体の枠組みに照してディテールを配置したり、逆に全体からディテールの軽重を判別したりする見方をシステムの視点と言います。システムはいくつかの要素または部分が機能的につながり、それらの相互関係によって固有のメカニズムが生まれます。物事をシステムの的に考え、要素と要素とのつながりを見て、それに基づいて要素と全体、すなわち部分と全体との固有の関係を重視する視点に立つよう心がけて下さい。

つぎに、科学技術の進歩と人間性や心の問題についてであります。人が動くかわりに、情報が動くのが情報化社会のはずであります。情報化が進むほどフェイス・ツー・フェイスの接触の機会が増えると言われており、技術が進むほど人間疎外にならないよう、人間的ふれあいや意志の疎通をはかる事が大切であります。また、物と生命にまたがる問題として、男女産み分けや脳死の判定と臓器移植の問題があります。医師の

倫理観だけの問題ではなく、科学技術礼讃のあまりに人間の尊厳、人権の尊重の思想がやゝもすれば空洞化し、人間疎外の風潮がびまんする危険が問題なのであります。技術が進むほど、人間性や心の問題が重要であることを忘れてはなりません。

最後に、今年是我国が国際化社会になる足がかりをつかむ年だと言われております。貿易摩擦や円高対策として、我国企業の外国進出、市場開放や国際化進展のための輸入拡大や外国企業の我国への上陸が進むと思われ、労働観の違い、習慣、生活様式の違いなどから来る摩擦に、利害関係がからむ場合は、大きなトラブルにつながります。極めて均質的、集約的民族である我々は、いわゆる閉鎖的で国際感覚に乏しい民族であるとの声があります。多様な外国文化のすぐれた個性を深く理解する事につとめ、仕事や交流を通じて民族性の相互理解による国際協調に積極的に努力するよう心掛けて欲しいと思ひます。

21世紀は我国の時代だと言われております。ニューフロンティアの開拓に向って挑戦する皆さんの勇気と努力を期待します。

どうぞ、くれぐれも健康に留意され頑張ってください。これをもって、卒業生諸君へのはなむけの言葉と致します。

## 関係法令

### 法律

- 国立学校設置法の一部を改正する法律(5) 3・31  
(注) 福島大学に行政社会学部を、三重大学の農学部及び水産学部を統合して生物資源学部が設置される等の改正があった。

### 政 令

- 放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律施行令の一部を改正する政令(42) 3・17  
(注) 同法に基づく許可、検査等に係る手数料の額が引き上げられた。
- 著作権法施行令の一部を改正する政令(46) 3・20  
(注) 著作物の利用に関する裁定手数料、著作権登録原簿の謄本又は抄本の交付手数料、閲覧手

数料の額が改められた。

- 日本育英会法施行令の一部を改正する政令(59) 3・25  
(注) 大学等に在学する者に対する第一種学資金及び第二種学資金の額が引き上げられた。第二種学資金の増額貸与に係る貸与利率が改められる等の改正があった。
- 国立学校設置法施行令の一部を改正する政令(82) 3・31  
(注) 新潟大学等4大学の大学院に5研究科が置かれ、名称及び課程が定められた。千葉大学の大学院の理学研究科等8大学の大学院の14研究科の課程が改められた。

**府令・省令**

○官報，法令全書，職員録等の発行に関する命令の一部を改正する命令（総理・大蔵1） 3・30

**省 令**

○教育職員免許法施行規則及び教育職員免許法施行法施行規則の一部を改正する省令（文部3） 3・10  
 ○国際電子郵便の取扱いに関する省令の一部を改正する省令（郵政7） 3・13  
 ○電子郵便の取扱いに関する省令を一部改正する省令（郵政10） 3・17  
 ○外国郵便規則の一部を改正する省令（郵政11） 3・19  
 ○文部省定員規則の一部を改正する省令（文部9） 3・31  
 ○国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令（文部10） 3・31  
 ○国立大学の学科及び課程並びに講座及び学科目に関する省令の一部を改正する省令（文部11） 3・11  
 ○国立大学の大学附置研究所の研究部門に関する省令の一部を改正する省令（文部

12） 3・31  
 ○物品税法施行規則の一部を改正する省令（大蔵13） 3・31

**規 則**

○日本国有鉄道改革法等施行法（昭和61年法律第93号）の施行に伴う関係人事院規則の整備に関する人事院規則（人事院1-13） 3・20  
 ○人事院規則17-0（管理職員等の範囲）の一部を改正する人事院規則（人事院17-0-8） 3・20

**告 示**

昭和62年度民間学術研究機関補助金交付申請書及び添付書類の提出期限を定める件（文部19） 3・2  
 出納官史事務規程第16条に規定する外国貨幣換算率を定める等の件の一部を改正する件（大蔵28・29） 3・6

**官庁報告**

昭和62年度国家公務員採用試験施行計画（人事院） 3・30

**学 内 規 則**

**富山大学学則の一部改正**

富山大学学則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

昭和62年 3月17日

富山大学長 大井信一

**富山大学学則の一部を改正する学則**

富山大学学則（昭和59年 3月12日制定）の一部を次のように改正する。

別表第4中「14,000円」を「16,700円」に，「7,000円」を「8,400円」に改める。

- 1 この学則は，昭和62年 4月 1日から施行する。
- 2 昭和62年 3月31日以降引き続き在学している研究生，聴講生及び特別聴講学生に係る授業料の額は，学則その他の規則に定められた在学期間（在学期間が延長された場合で，当該延長期間の始期が昭和62年 4月 1日以降である者を除く。）が満了するまでの間は，なお従前の例による。

▶富山大学学則の改正理由

富山大学における研究生及び聴講生に係る授業料を改訂するため，所要事項を改める。

**附 則**

### 富山大学経営短期大学の廃止に伴う関係規則等の整理に関する規則の制定

富山大学経営短期大学の廃止に伴う関係規則等の整理に関する規則を次のとおり制定する。

昭和62年3月17日

富山大学長 大井信一

#### 富山大学経営短期大学の廃止に伴う関係規則等の整理に関する規則

(富山大学学長選考基準の一部改正)

第1条 富山大学学長選考基準(昭和28年5月28日制定)の一部を次のように改正する。

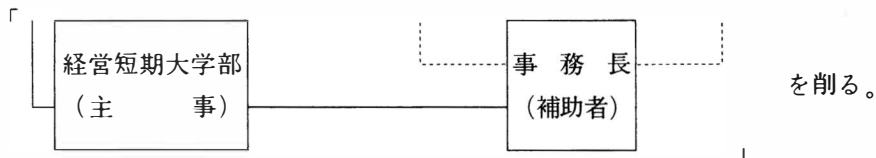
附則(昭和54年3月1日)第2項及び第3項を削り、附則第1項の項番号を削る。

(富山大学国有財産取扱規則の一部改正)

第2条 富山大学国有財産取扱規則(昭和33年3月7日制定)の一部を次のように改正する。

第2条第1項中「保健管理センター及び経営短期大学部」を「及び保健管理センター」に改め、同条第2項中「(経営短期大学部にあっては主事)」

別表第2の保安業務の組織図中



(富山大学公印管理規則の一部改正)

第7条 富山大学公印管理規則(昭和48年4月13日制定)の一部を次のように改正する。

別表第1の経営短期大学の項中

「|事務長|総務係長|」を

経済学部	経済学部	に改める。
事務長	庶務係長	

別表第2の経営短期大学の項中

富山大学経営短期大学部事	23	”	”	”	”	を削り、
務長の印						

「|事務長|総務係長|」を

経済学部	経済学部	に改める。
事務長	庶務係長	

を削る。

(富山大学レクリエーション委員会規則の一部改正)

第3条 富山大学レクリエーション委員会規則(昭和38年11月1日制定)の一部を次のように改正する。

第3条第8号を削る。

第4条第1項中「第8号」を「第7号」に改める。

(富山大学当直規則の一部改正)

第4条 富山大学当直規則(昭和39年2月15日制定)の一部を次のように改正する。

第1条中「経営短期大学部を含む。」を削る。

(富山大学防火管理規則の一部改正)

第5条 富山大学防火管理規則(昭和39年9月18日制定)の一部を次のように改正する。

第2条第2項中「(経営短期大学部にあっては主事)」を削る。

(富山大学電気工作物保安規則の一部改正)

第6条 富山大学電気工作物保安規則(昭和41年3月15日制定)の一部を次のように改正する。

第4条第5号中「、附属図書館及び経営短期大学部」を「及び附属図書館」に改める。

別表第1中「経営短期大学部」を削る。

(富山大学職員健康管理規則の一部改正)

第8条 富山大学職員健康管理規則(昭和51年10月1日制定)の一部を次のように改正する。

第1条中「(経営短期大学部を含む。)」を削る。

第2条第1項中「, トリチウム科学センター及び経営短期大学部」を「及びトリチウム科学センター」に改め, 同条第2項中「, 経営短期大学部にあっては主事」を削る。

別表第1中経営短期大学の項を削る。

(富山大学情報処理センター規則の一部改正)

第9条 富山大学情報処理センター規則(昭和59年7月20日制定)の一部を次のように改正する。

第9条第1項中第3号を削り, 第4号を第3号とし, 第5号から第7号までを1号ずつ繰り上げる。

第9条第2項中「及び第3号」を削り, 「, 教養部及び経営短期大学部」を「及び教養部」に改め, 「(経営短期大学部にあっては主事)」を削る。

第9条第3項中「及び第3号」を削る。

#### 附 則

この規則は, 昭和62年4月1日から施行する。

▶富山大学経営短期大学部の廃止に伴う関係規則等の整理に関する規則の制定理由

国立学校設置法の改正(昭和61年4月法律第26号)により, 富山大学経営短期大学部が廃止されることに伴い, 所要事項を改める。

### 富山大学経営短期大学部の廃止に伴う関係細則の整理に関する細則の制定

富山大学経営短期大学部の廃止に伴う関係細則の整理に関する細則を次のとおり制定する。

昭和62年3月17日

富山大学長 大井信一

#### 富山大学経営短期大学部の廃止に伴う関係細則の整理に関する細則

(富山大学学長選考基準細則の一部改正)

第1条 富山大学学長選考基準細則(昭和28年10月2日制定)の一部を次のように改正する。

附則(昭和54年3月1日)第2項から第4項までを削り, 附則第1項の項番号を削る。

(富山大学物品管理事務取扱細則の一部改正)

第2条 富山大学物品管理事務取扱細則(昭和35年4月22日制定)の一部を次のように改正する。

第2条第1項中「, 保健管理センター及び経営短期大学部」を「及び保健管理センター」に改め, 同条第2項中「(経営短期大学部にあっては主事)」を削る。

別表第3の1中「経営短期大学部」を削る。

別表第3の2中経営短期大学部の項を削る。

#### 附 則

この細則は, 昭和62年4月1日から施行する。

▶富山大学経営短期大学部の廃止に伴う関係細則の整理に関する細則の制定理由

国立学校設置法の改正(昭和61年4月法律第26号)により, 富山大学経営短期大学部が廃止されることに伴い, 所要事項を改める。

### 富山大学公開講座規則の一部改正

富山大学公開講座規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

昭和62年3月26日

富山大学長 大井信一

#### 富山大学公開講座規則の一部を改正する規則

富山大学公開講座規則(昭和57年11月12日制定)の一部を次のように改正する。

第7条第2項中「2,500円」を「3,000円」に, 「500円」を「600円」に改める。

#### 附 則

この規則は, 昭和62年4月1日から施行する。

▶富山大学公開講座規則の改正理由

国立の学校における授業料等の改定について(昭和62年2月10日付け文高学第79号文部省高等教育局長通知)に基づき, 講習料の額を改定するため, 所要事項を改める。

## 富山大学と民間等との共同研究取扱規則の一部改正

富山大学と民間等との共同研究取扱規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

昭和62年3月30日

富山大学長 大井信一

### 富山大学と民間等との共同研究取扱規則の一部を改正する規則

富山大学と民間等との共同研究取扱規則（昭和59年

10月26日制定）の一部を次のように改正する。

第7条第1項中「360,000円」を「400,000円」に改める。

### 附 則

この規則は、昭和62年4月1日から施行する。

▶富山大学と民間等との共同研究取扱規則の改正理由  
民間等共同研究員、受託研究員等の研究料について（事務連絡、昭和62年1月19日）に基づき、富山大学における民間等共同研究員に係る研究料を改定するため、所要事項を改める。

## 諸 会 議

昭和61年度第8回事務協議会（3月3日）

（議 題）

当面の諸問題について

第11回学長選考基準検討委員会（3月13日）

（議 題）

学長選考基準について

昭和61年度第2回低温液化室運営委員会（3月13日）

（議 題）

任期満了に伴う次期室長の推薦について

昭和61年度第6回大学員委員会（3月17日）

（審議事項）

1. 昭和61年度富山大学大学院理学研究科（修士課程）及び工学研究科（修士課程）修了者の認定について
2. 富山大学大学院学則の一部改正について（継続審議）

昭和61年度第12回評議会（3月17日）

（審議事項）

1. 昭和62年度富山大学入学者選抜試験合格者の認定について
2. 昭和61年度卒業生及び修了者の認定について
3. 富山大学学則の一部改正について
4. 富山大学経営短期大学の廃止に伴う関係規則等

の整理に関する規則の制定について

5. 富山大学経営短期大学の廃止に伴う関係細則の整理に関する細則の制定について
6. 次期学生部長候補者の選考について

第6回総合大学院検討委員会自然科学部会（3月20日）

（議 題）

総合大学院について

富山大学構内交通対策委員会（3月24日）

（議 題）

委員長の選出について

昭和61年度第9回事務協議会（3月24日）

（議 題）

当面の諸問題について

昭和61年度第4回国際交流委員会（3月26日）

（審議事項）

1. 昭和62年度の本学と遼寧大学との教員の学術交流について
2. 国際交流委員会の下部機関としての専門委員会設置について

学 事

昭和62年度富山大学入学者選抜について

一実施状況一

昭和62年度富山大学第2次入学試験は、去る3月5日（木）6日（金）両日にわたり実施されました。

志願者は8,125名で、県内高等学校出身者2,757名（男子1,576名、女子1,181名）で全体の34%、現役は5,840名（男子4,048名、女子1,792名）で全体の77%でした。

合格発表は、3月18日（水）午前9時本学で行われ、合格者1,860名の内訳をみると県内高等学校出身者837名（男子408名、女子429名）で全体の45%であり昨年

の56%を下回りました。

また、理学部物理学科において定員一部留保第2次募集（入学定員12名を留保）が実施され、合格者の発表は、3月30日（月）午後4時本学で行われました。

- 注 1 人文学部、経済学部、理学部の（ ）内は、推薦入学及び社会人・帰国子女特別選抜の志願者・受験者・合格者の内数を示す。
- 2 理学部物理学科の（ ）内は、定員一部留保第2次募集入学志願者・受験者・合格者の内数を示す。

一選 抜 状 況一

学部	学 科 (課 程)		募集人員	志願者数	受験者数	欠席者(1部欠を含む)	合格者数
人 文	人 文 学 科		95	382	317	65	127
	語 学 文 学 科		95	358 ( 2)	329 ( 1)	29 ( 1)	127( 0)
	計		190	740 ( 2)	646 ( 1)	94 ( 1)	254( 0)
教 育	小学校教員養成課程		140	666	606	60	219
	中学校教員養成課程		50	396	335	61	97
	養護学校教員養成課程		20	103	86	17	24
	幼稚園教員養成課程		30	110	100	10	31
	計		240	1,275	1,127	148	371
経 済	昼間主 コース	経 済 学 科	144	886 ( 14)	767 ( 14)	119 ( 0)	192(10)
		経 営 学 科	124	734 ( 12)	644 ( 12)	90 ( 0)	166( 8)
		経 営 法 学 科	102	379 ( 1)	332 ( 1)	47 ( 0)	137( 0)
		計	370	1,999 ( 27)	1,743 ( 27)	256 ( 0)	495(18)
	夜間主 コース	経 済 学 科	20	100 ( 15)	100 ( 15)	0 ( 0)	27(13)
		経 営 学 科	20	67 ( 17)	67 ( 17)	0 ( 0)	24(14)
		経 営 法 学 科	20	62 ( 17)	62 ( 17)	0 ( 0)	24(13)
計		60	229 ( 49)	229 ( 49)	0 ( 0)	75(40)	
理	数 学 学 科		43	167	154	13	74
	物 理 学 科		47	401 ( 144)	371 ( 144)	30	62(19)
	化 学 学 科		43	238	203	35	54
	生 物 学 科		35	306 ( 2)	278 ( 1)	28 ( 1)	41( 1)
	地 球 科 学 科		32	227	197	30	37
	計		200	1,339 ( 2)	1,203 ( 1)	136 ( 1)	268( 1)



工	電 気 工 学 科	53	392	346	46	65
	工 業 化 学 科	48	394	326	68	58
	金 属 工 学 科	43	290	246	44	51
	機 械 工 学 科	53	565	491	74	69
	生 産 機 械 工 学 科	43	372	319	53	55
	化 学 工 学 科	43	329	274	55	53
	電 子 工 学 科	43	345	307	38	65
	計	326	2,687	2,309	378	416
合	計	1,386	8,269	7,257	1,012 ( 2 )	1,879

### 昭和61年度富山大学卒業証書、修了証書 並びに修士学位記授与式の挙

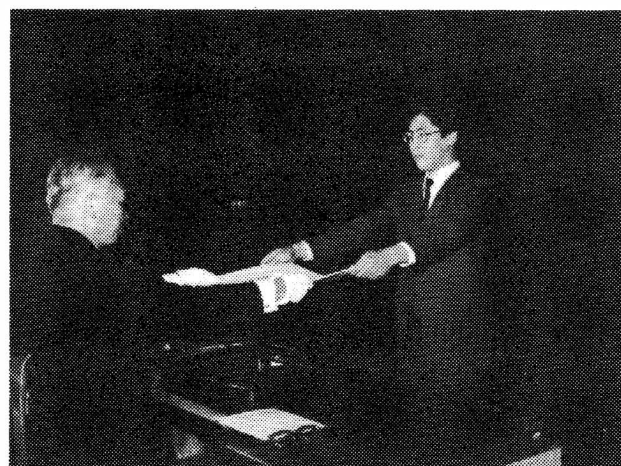
昭和61年度富山大学卒業証書、修了証書並びに修士学位記授与式は、3月25日(水)午前10時30分から富山市公会堂において挙行され、証書授与に先立ち、本学フィルハーモニー管弦楽団による演奏が行われました。

当日は風が強く小雪まじりのあいにくの天候であったが、式終了後の公会堂前では各クラブの後輩たちによる胴上げ、記念撮影などが見られ、引き続き、各学部ごとの卒業記念祝賀会が各会場で行われました。

また、午前11時50分から公会堂別館 301会議室において名誉教授との懇談会が開催され、大井学長から最近における本学の状況等について説明があった後、それぞれ出席の名誉教授から個々の近況などについて懇

談がなされ、和やかな雰囲気の中に終了しました。

なお、大学院の学位記を授与された者は次のとおり



### 昭和61年度 富山大学大学院理学研究科(修士課程)修了者

専攻	入学年度	氏名	論文題目
数 学 (2名)	昭和60年度	砂子 勲	2次形式の数論「特にU-invariant について」
	"	宮崎 芳枝	Martingale inequalities
物理学 (8名)	"	朝倉 清志	第五の力について
	"	伊藤 敦	赤外・ラジオ波二重共鳴によるシュタルク効果の研究
	"	遠藤 壮	アモルファス半導体の結晶学 —真空蒸着により作製したアモルファスGe-X(X=Sb, Sn)合金薄膜の結晶化—
	"	杉山 弘	X線セクショントポグラフィによるシリコン結晶中の酸素析出現象の研究
	"	林 利光	赤外・赤外二光子遷移の研究
"	平崎 泰司	格子ゲージ理論におけるダブリング問題の回避の可能性	

	昭和60年度	藤 井 暁 義	軽希土類金属を含む金属間化合物の電氣的, 磁氣的性質の研究
	"	渡 辺 修	メチルアミン分子のマイクロ波分光
化 学 (2名)	"	斎 藤 昭 人	「フロおよびオキセピノクロモン誘導体の合成について」
	"	森 厚 人	「リン酸バナジウム系触媒の構造とn-ブタン酸化活性」
生 物 学 (3名)	"	斎 藤 典 保	スイバ常染色体変異の地理的分布
	"	松 田 恒 平	両生類のカルシトニンとその関連ペプチド: 活性と体内分布
	"	和 田 利 美	葉緑体の光化学反応中心IIへの電子供与反応について
地 球 学 (4名)	"	網 野 順	南極エレバス火山の地震活動と火山性微動
	"	伊 藤 順 一	姫島火山群の地質と岩石学的研究
	"	岡 田 宗	堆積残留磁化による考古時代の地磁気永年変化
	"	松 本 博 志	熱伝達の研究

## 昭和61年度 富山大学大学院工学研究科(修士課程)修了者

専 攻	入学年度	氏 名	論 文 題 名
電 気 工 学 専 攻 (7名)	昭和60年度	倉 田 康 浩	心電波形認識の試み
	"	坂 田 勉	室内音響系のモーダル・モデル
	"	高 木 良 輔	声道伝達系の境界要素シミュレーション
	"	谷 地 章 史	細胞(原生動物)の電界効果と電界融合の試み
	"	塚 田 章	コオロギの発音に関与する筋肉とそれを制御する神経システムの研究
	"	中 齋 孝 文	電気インピーダンス法非破壊検査の境界要素シミュレーション
	"	藤 田 明 弘	コトコフ音の発生機構の基礎的研究とその臨床応用
工 業 化 学 専 攻 (7名)	"	澁 谷 光 夫	架橋アヌレン類の合成と性質
	"	藤 井 宏	Mechanistic Studies on the Chemistry of Organosulfur Compounds. Alkaline Hydrolysis of N-Halosulfilimines, Sterically Hindered Sulfenic Acids.
	"	村 岸 武 夫	溶剤処理石炭液化油重質留分の化学構造に関する研究 —中性と酸性成分分析—
	"	室 谷 昌 宏	縮環キノメチッド化合物の合成と性質
	"	山 田 茂 昭	抽出剤および充填剤にナフタレンを用いる微量金属(Ni, Pd, Cu)分析
	"	山 村 豊	新石炭アルキル化反応生成物の構造解析ベンゼン可溶分のGPC分析
	"	横 田 尚 子	N-未置換のスルフィリミンの物性と化学反応性
	"	岡 本 康 夫	Ni-Al合金の電気抵抗による低温時効の検討

金属工 学専攻 (9名)	昭和60年度	七 野 勇 人	Cu基多結晶合金の加工硬化
	"	白 石 裕	鉄及び鉄-ニッケル合金の歪時効に及ぼす侵入型溶質原子の拡散と析出
	"	竹 田 美緒子	極低炭素鋼の冷延再結晶微視組織に及ぼす微量窒素・ニオブウムの影響
	"	田 中 清 知	鉄合金の孔食に関する基礎的研究
	"	中 根 秀 行	Al-Mg合金鑄塊における羽毛状晶の形成機構
	"	畑 中 秀 夫	酸性抽出剤による鉄の抽出速度に関する研究
	"	林 幹 生	アルコキッド法によるZnO微粉体の調整及び焼結についての研究
	"	正 橋 幸 一	急速加熱された窒素を含む極低炭素冷延鋼板の再結晶集合組織
機械工 学専攻 (7名)	"	相 川 浩 樹	静圧気体スラスト軸受の諸特性に及ぼす気体の慣性力の影響に関する研究
	"	麻 本 充	アルミニウム合金の極低サイクル腐食疲労下におけるき裂進展挙動に関する研究
	"	北 山 武 司	並列2円柱まわりの流れと平板の干渉に関する研究
	"	倉 部 美 希	非定常熱線法による高温域での断熱材の熱伝導率に関する研究
	"	姫 野 徹 治	低サイクル疲労下における複数疲労き裂進展の相互作用に関する研究
	"	村 川 勇 人	平行軸まわりに回転する長方形管内の流れに関する研究
	"	守 田 範 夫	スクイーズ膜特性に及ぼす潤滑流体の慣性力の影響に関する研究
生産機 械工学 専 攻 (2名)	"	中 川 寛	急冷凝固粉末法による7475系アルミニウム合金の超塑性特性改善に関する研究
	"	森 川 厚 司	凹面鏡の形状測定に関する研究
化学工 学専攻 (8名)	"	岡 田 一 成	チタン酸バリウムセラミックスの合成プロセスに関する研究
	"	川 治 信 介	液体膜分離操作に基づく銅〔II〕の透過機構
	"	川 島 清 隆	気・液上昇並流接触反応装置における物質移動特性
	"	米 谷 正 弘	乱流促進体による伝熱促進機構
	"	田 中 秀 佳	米粒の乾燥方法と乾燥応力
	"	中 島 隆	ニッケル鉱石の湿式処理 —浸出液中のMgSO <sub>4</sub> の晶出—
	"	野 末 達 也	ロータリーリフターを装備した単一水平回転円錐型容器による閉回路造粒操作
	"	林 武 彦	回転円板法による粒子形状 分離 —粒子形状解析とその分離機構—
電子工 学専攻 (12名)	"	大内田 裕 史	強誘電性液晶セルにおける電氣的・光学的特性
	"	片 岡 陽 一	Si(100)面上へのGeのヘテロエピタキシャル成長に関する研究
	"	川 田 靖	強誘電性SmC*液晶セルにおける分子配向制御



辞 職	62. 3. 31	沖 幸 雄	教諭(教育学部附属養護学校)	辞職を承認する	富山大学長
	"	酒 井 元 雄	教諭(教育学部附属養護学校)	辞職を承認する	"
	"	黒 木 輝 子	教諭(教育学部附属養護学校)	辞職を承認する	"
	"	島 木 嘉 子	教頭(教育学部附属幼稚園)	辞職を承認する	文 部 大 臣
併 任	"	野 村 昇	教授(教育学部)	教育学部長・評議員(62. 3. 31 ~64. 3. 30)	"
採 用	62. 4. 1	檀 上 寛		助教授(人文学部)	富山大学長
	"	諸 岡 晴 美		講師(教育学部)	"
	"	茂 垣 広 志		助手(経済学部)	"
	"	谷 本 雅 之		助手(経済学部)	"
	"	山 田 恭 司		助教授(理学部)	"
	"	大 藤 茂		助手(理学部)	"
	"	中 山 剛		教授(工学部)	文 部 大 臣
	"	小 松 謙		講師(教養部)	富山大学長
	"	長 原 好 成		教諭(教育学部附属小学校)	"
	"	田 上 修 一		教諭(教育学部附属小学校)	"
	"	平 崎 和 則		教諭(教育学部附属中学校)	"
	"	此 川 佳 子		教諭(教育学部附属中学校)	"
	"	堀 田 清 子		教諭(教育学部附属養護学校)	"
	"	松 本 良 子		教諭(教育学部附属養護学校)	"
	"	近 江 幸 人		教諭(教育学部附属養護学校)	"
	"	松 田 由 美		教諭(教育学部附属養護学校)	"
	"	六 渡 ひと美		教諭(教育学部附属養護学校)	"
	"	吉 川 真利子		教諭(教育学部附属幼稚園)	"
	"	津 島 康 二		文部技官(施設課)	"
	"	山 田 聖		文部技官(工学部)	"
	"	大 門 聡		文部事務官(教養部)	"
	"	木 下 晋		実務研修生(非常勤)(経理部経理課)	"
	"	高 瀬 久美子		事務補佐員(経理部主計課)	"
	"	木 村 恵 子		事務補佐員(経理部経理課)	"
	"	五十嵐 仁 子		事務補佐員(施設課)	"
	"	三 浦 みより		事務補佐員(人文学部・理学部)	"
	"	田 中 常 達		臨時用務員(人文学部・理学部作業員)	"
	"	高 桑 弘 基		臨時用務員(人文学部・理学部作業員)	"
	"	藤 野 敏 子		事務補佐員(教育学部)	"
	"	岡 本 一 雄		臨時用務員(教育学部作業員)	"
	"	田 上 進		臨時用務員(教育学部作業員)	"

採用	62. 4. 1	永井正夫		臨時用務員(教育学部作業員)	富山大学長
	"	黒澤浩子		事務補佐員(教育学部)	"
	"	河崎多紀子		事務補佐員(経済学部)	"
	"	中波憲子		事務補佐員(工学部)	"
	"	榎明美		事務補佐員(教養部)	"
	"	林敬久		教務補佐員(教養部)	"
昇任	"	釘貫亨	講師(人文学部)	助教授(人文学部)	"
	"	松川三郎	助教授(教育学部)	教授(教育学部)	文部大臣
	"	武田紀代恵	講師(経済学部)	助教授(経済学部)	富山大学長
	"	長井長信	助手(北海道大学法学部)	講師(経済学部)	"
	"	長久良一	助手(経済学部)	講師(経済学部)	"
	"	鳴橋直弘	助教授(理学部)	教授(理学部)	文部大臣
	"	菅井道三	助教授(理学部)	教授(理学部)	"
	"	對馬勝年	助教授(理学部)	教授(理学部)	"
	"	笹山雄一	助手(理学部)	助教授(理学部)	富山大学長
	"	小松美英子	文部技官(理学部)	助手(理学部)	"
	"	竹越栄俊	助教授(工学部)	教授(工学部)	文部大臣
	"	宮下尚	助教授(工学部)	教授(工学部)	"
	"	村井忠邦	助手(工学部)	講師(工学部)	富山大学長
	"	福田明夫	助教授(教養部)	教授(教養部)	文部大臣
	"	奥村讓	講師(教養部)	助教授(教養部)	富山大学長
	"	松井茂昭	教諭(教育学部附属養護学校)	教頭(教育学部附属養護学校)	文部大臣
	"	杉谷利枝子	教諭(教育学部附属幼稚園)	教頭(教育学部附属幼稚園)	"
	"	花岡勉	学生部次長	国立若狭湾少年自然の家所長	"
	"	小山田浩彦	北海道大学学生課長	学生部次長	"
	"	中林邦夫	庶務部人事課課長補佐	高岡短期大学会計課長	"
	"	本澤健二	学生課教務係長	庶務部人事課課長補佐	"
	"	結城進	教育学部会計係長	経理部主計課課長補佐	"
	"	西尾武	経済学部庶務係長	経済学部事務長補佐	"
	"	泉三郎	庶務部庶務課庶務係長	教養部事務長補佐	"
	"	伊野不二夫	庶務部庶務課庶務係庶務主任	高岡短期大学庶務課人事係長	高岡短期大学長
	"	松永良成	経理部主計課総務係監査主任	体育局スポーツ課登山研修所庶務係長	文部大臣
	"	高邑欣市	学生課総務係総務主任	富山工業高等専門学校学生課庶務係長	富山工業高等専門学校長
	"	谷口和則	教育学部庶務係庶務主任	国立立山少年自然の家庶務課庶務係長	国立立山少年自然の家所長
	"	川原卯吉	東京大学医科学研究所管理課	庶務部人事課給与係給与主任	富山大学長
	"	長崎悟	文部事務官(教育学部)	富山商船高等専門学校学生課学生係学生主任	富山商船高等専門学校長

転 任	62. 4. 1	夫 馬 進	助教授(人文学部)	助教授(京都大学文学部)	京都大学長	
	"	呉 羽 長	助教授(島根大学教育学部)	助教授(教育学部)	富山大学長	
	"	松 井 政 明	教諭(広島大学附属高等学校)	助教授(教育学部)	"	
	"	木 下 資 一	助教授(教育学部)	助教授(神戸大学教養部)	神戸大学長	
	"	日 水 俊 夫	経済企画庁調査局内閣調査第二課長	教授(経済学部)	文 部 大 臣	
	"	小 郷 直 言	助教授(経済学部)	助教授(高岡短期大学産業情報学科)	高岡短期大学長	
	"	岡 田 東 彦	経営短期大学部総務係長	庶務部庶務課学事調査係長	富山大学長	
	"	大 場 克 晃	富山工業高等専門学校会計課用度係長	厚生課奨学係長	"	
	"	松 本 進	体育局スポーツ課登山研修所庶務係長	人文学部・理学部経理係長	"	
	"	雁 田 彰	高岡短期大学庶務課人事係長	教育学部庶務係長	"	
	"	三 井 進	経営短期大学部学務係長	経済学部教務係長	"	
	"	今 井 稔	富山商船高等専門学校会計課用度係長	附属図書館総務係長	"	
	"	門 前 剛 二	経営短期大学部総務係総務主任	教育学部附属学校第二係庶務主任	"	
	"	池 田 真紀美	文部事務官(金沢大学医学部附属病院医事課外来係)	文部事務官(経理部経理課)	"	
	"	橋 本 美 紀	文部事務官(富山工業高等専門学校庶務課)	文部事務官(経済学部)	"	
	"	片 桐 茂	文部事務官(金沢大学教養部会計係)	文部事務官(経済学部)	"	
	"	竹 田 充 輝	文部事務官(経営短期大学部)	文部事務官(経済学部)	"	
	"	高 橋 春 男	文部事務官(経営短期大学部)	文部事務官(経済学部)	"	
	"	光 澤 春 男	文部事務官(国立立山少年自然の家 兼課業務係)	文部事務官(工学部)	"	
	"	田 中 輝 和	文部事務官(庶務部庶務課)	文部事務官(高岡短期大学庶務課)	高岡短期大学長	
	"	堂 口 肇	文部事務官(教育学部)	文部事務官(金沢大学工学部学生係)	金沢大学長	
	"	笹 岡 直 美	文部事務官(経済学部)	文部事務官(富山工業高等専門学校庶務課)	富山工業高等専門学校校長	
	"	熊 崎 卓 巳	文部事務官(工学部)	文部事務官(岐阜大学医学部医事課)	岐阜大学長	
	"	新 庄 忍	文部事務官(工学部)	文部事務官(国立立山少年自然の家庶務課会計係)	国立立山少年自然の家所長	
	"	庄 司 正 文	文部事務官(附属図書館)	文部事務官(高岡短期大学事業課)	高岡短期大学長	
	配 置 換	"	高 原 吉 朗	経理部長	群馬大学経理部長	文 部 大 臣
		"	林 利 治	山形大学経理部長	経理部長	"
"		黒 田 正 男	鶴岡工業高等専門学校学生課長	事務局付	"	
"		平 岡 幸 一	高岡短期大学事業課長	経済学部事務長	"	
"		石 黒 勝 夫	経理部主計課課長補佐	工学部事務長補佐	"	
"		岡 山 一 雄	庶務部庶務課学事調査係長	庶務部庶務課庶務係長	富山大学長	
"		東 敏	附属図書館総務係長	経理部経理課給与係長	"	
"		土 肥 隆 三	学生課入学試験係長	学生課教務係長	"	
"		奥 村 行 夫	工学部学務係長	学生課入学試験係長	"	
"		山 下 壽 和	教養部庶務係長	人文学部・理学部庶務係長	"	
"		刈 賀 春 樹	経理部経理課給与係長	教育学部会計係長	"	

配置換	62. 4. 1	浦田 隆 志	工学部庶務係長	経済学部庶務係長	富山大学長
	"	湊 馨	人文学部・理学部経理係長	経済学部会計係長	"
	"	杉林 昭子	経済学部学務係長	経済学部学生係長	"
	"	清水 寛	人文学部・理学部庶務係長	工学部庶務係長	"
	"	御福 隆	厚生課奨学係長	工学部学務係長	"
	"	嶋田 政信	教育学部庶務係長	教養部庶務係長	"
	"	酒井 利満	庶務部人事課給与係給与主任	庶務部人事課任用係任用主任	"
	"	東仙 博	経理部経理課用度係物品管理主任	経理部主計課総務係監査主任	"
	"	羽広 孝司	教育学部附属学校第一係会計主任	経理部経理課用度係物品管理主任	"
	"	鹿島 光雄	工学部経理係経理主任	施設課企画係企画主任	"
	"	清水 良太郎	施設課企画係企画主任	教育学部附属学校第一係会計主任	"
	"	湯浅 健一	経済学部学務係学生主任	経済学部教務係教務主任	"
	"	松本 修一	文部事務官(庶務部人事課)	文部事務官(庶務部庶務課)	"
	"	田中正博	文部事務官(経済学部)	文部事務官(経理部主計課)	"
	"	佐藤 淳	文部事務官(経理部経理課)	文部事務官(経理部主計課)	"
	"	絹石 達也	文部事務官(工学部)	文部事務官(経理部経理課)	"
	"	北角 政信	文部事務官(教養部)	文部事務官(経理部経理課)	"
	"	竹内 勝	文部事務官(人文学部・理学部)	文部事務官(学生課)	"
	"	川上 重信	文部事務官(経済学部)	文部事務官(学生課)	"
	"	作井 功	文部事務官(教育学部)	文部事務官(人文学部・理学部)	"
	"	村崎 勝子	文部事務官(経理部経理課)	文部事務官(人文学部・理学部)	"
	"	武 久美子	文部事務官(教養部)	文部事務官(人文学部・理学部)	"
	"	津島 浩司	文部事務官(工学部)	文部事務官(人文学部・理学部)	"
	"	柴田 淳	文部事務官(人文学部・理学部)	文部事務官(教育学部)	"
	"	北 治夫	文部事務官(経理部主計課)	文部事務官(教育学部)	"
	"	山田 豊	文部事務官(経済学部)	文部事務官(教育学部)	"
	"	石塚 久博	文部事務官(教養部)	文部事務官(教育学部)	"
	"	高橋 知裕	文部事務官(教育学部)	文部事務官(経済学部)	"
	"	高畠 幸子	文部事務官(人文学部・理学部)	文部事務官(経済学部)	"
	"	石田 精一	文部事務官(経理部主計課)	文部事務官(工学部)	"
"	尾崎 美幸	文部事務官(人文学部・理学部)	文部事務官(工学部)	"	
"	高森 満	文部事務官(経理部経理課)	文部事務官(工学部)	"	
"	林 秀一	文部事務官(経済学部)	文部事務官(工学部)	"	
"	稲垣 克己	文部事務官(教育学部)	文部事務官(教養部)	"	
"	澤崎 勝彦	文部事務官(人文学部・理学部)	文部事務官(附属図書館)	"	
"	奥田 都	文部技官(経理部経理課)	文部技官(附属図書館)	"	



降 任	62. 4. 1	松 井 博 文	国立立山少年自然の家庶務課庶務係長	庶務部庶務課庶務係庶務主任	富山大学長
併 任	"	松 嶋 道 夫	教授(経済学部)	教授(経営短期大学部)(62. 4. 1~63. 3. 31)	文 部 大 臣
	"	南 龍 久	教授(経済学部)	教授(経営短期大学部)(62. 4. 1~63. 3. 31)	"
	"	篠 原 巖	助教授(経済学部)	助教授(経営短期大学部)(62. 4. 1~63. 3. 31)	富山大学長
	"	榊 原 英 夫	助教授(経済学部)	助教授(経営短期大学部)(62. 4. 1~63. 3. 31)	"
	"	芳 賀 健 一	助教授(経済学部)	助教授(経営短期大学部)(62. 4. 1~63. 3. 31)	"
	"	佐 藤 良 一	助教授(経済学部)	助教授(経営短期大学部)(62. 4. 1~63. 3. 31)	"
	"	小 倉 利 丸	助教授(経済学部)	助教授(経営短期大学部)(62. 4. 1~63. 3. 31)	"
	"	小 黒 千 足	教授(理学部)	評議員の併任を解除する	文 部 大 臣
	"	小 黒 千 足	教授(理学部)	理学部長・評議員(62. 4. 1~64. 3. 31)	"
	"	小 黒 千 足	教授(理学部)	トリウム科学センター長(62. 4. 1~64. 3. 31)	"
	"	松 本 賢 一	教授(理学部)	評議員(62. 4. 1~62. 5. 1)	"
	"	川 上 重 信	文部事務官(経済学部)	学生課の併任を解除する	富山大学長
	"	土 田 敏 雄	文部技官(経理部経理課)	附属図書館の併任を解除する	"
	"	土 田 敏 雄	文部技官(経理部経理課)	経理部主計課	"
	"	松 井 茂 昭	教諭(教育学部附属養護学校)	教育学部附属養護学校高等部主事の併任を解除する	"
	"	館 森 照 明	教諭(教育学部附属養護学校)	教育学部附属養護学校小学部主事の併任を解除する	"
	"	館 森 照 明	教諭(教育学部附属養護学校)	教育学部附属養護学校高等部主事	"
	"	布 尾 英 二	教諭(教育学部附属養護学校)	教育学部附属養護学校小学校主事	"
職務命令	"	谷 口 泰 一	文部技官(工学部)	工学部工場係工場主任を命ずる	"
	"	福 田 郁 子	文部技官(庶務部庶務課電話交換手)	庶務部庶務課電話交換手長を命ずる	"
	"	関 場 貞 子	文部事務官(附属図書館)	附属図書館受入係受入主任を免ずる	"
	"	関 場 貞 子	文部事務官(附属図書館)	附属図書館参考係参考主任を命ずる	"
公の名称 の 附 加	"	松 井 茂 昭	教頭(教育学部附属養護学校)	教育学部附属養護学校副校長を命ずる	文 部 大 臣
	"	杉 谷 利 枝 子	教頭(教育学部附属幼稚園)	教育学部附属幼稚園副園長を命ずる	"
退 職	"	石 原 ひと ぎ	教授(教育学部)	昭和62年3月31日限り停年により退職した	"
	"	児 島 毅	教授(理学部)	昭和62年3月31日限り停年により退職した	"
	"	小 林 貞 作	教授(理学部)	昭和62年3月31日限り停年により退職した	"
	"	中 川 正 之	教授(理学部)	昭和62年3月31日限り停年により退職した	"
	"	高 森 三 郎	教授(工学部)	昭和62年3月31日限り停年により退職した	"
	"	齊 藤 仁 代	教授(工学部)	昭和62年3月31日限り停年により退職した	"
	"	塚 島 寛	教授(工学部)	昭和62年3月31日限り停年により退職した	"
	"	白 鳥 一	教授(工学部)	昭和62年3月31日限り停年により退職した	"
	"	井 村 定 久	教授(工学部)	昭和62年3月31日限り停年により退職した	"
	"	若 林 嘉 一 郎	教授(工学部)	昭和62年3月31日限り停年により退職した	"
"	石 崎 千 代	事務補佐員(庶務部庶務課)	昭和62年3月31日限り退職した	富山大学長	

退職	62. 4. 1	稲原 永子	事務補佐員(人文学部・理学部)	昭和62年3月31日限り退職した	富山大学長
	"	塩谷 純子	技術補佐員(人文学部・理学部)	昭和62年3月31日限り退職した	"
	"	江野 與四郎	臨時用務員(人文学部・理学部作業員)	昭和62年3月31日限り退職した	"
	"	村井 権吉	臨時用務員(人文学部・理学部作業員)	昭和62年3月31日限り退職した	"
	"	辻澤 弥八郎	臨時用務員(教育学部作業員)	昭和62年3月31日限り退職した	"
	"	作道 勢以子	事務補佐員(工学部)	昭和62年3月31日限り退職した	"
	"	西島 健一	臨時用務員(教養部作業員)	昭和62年3月31日限り退職した	"
	"	林 英明	教務補佐員(教養部)	昭和62年3月31日限り退職した	"
	"	村 裕子	事務補佐員(附属図書館)	昭和62年3月31日限り退職した	"
	"	中村 喜久美	事務補佐員(附属図書館)	昭和62年3月31日限り退職した	"
	"	田 畠 麗子	事務補佐員(経営短期大学部)	昭和62年3月31日限り退職した	富山大学経営短期大学部学長

## 学 内 諸 報

### 人文学部長の改選

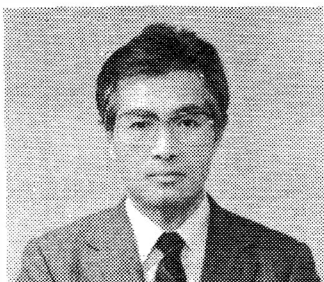
楠瀬勝人文学部長の任期が、昭和62年5月1日で満了することに伴い、人文学部教授会は、3月16日(月)に次期学部長候補者の選挙を行った。その結果、三寶政美教授が選出されました。任期は、昭和62年5月2日から2年間。

三寶教授は、昭和36年3月東北大学文学部文学科を卒業、39年3月東北大学大学院文学研究科修士課程修了、42年3月同研究科博士課程を退学、同年4月東北大学助手(文学部)に採用、44年4月秋田大学講師(教育学部)、46年4月同助教授、50年4月富山大学助教授(文理学部)、52年5月文理学部改組により人文学

部助教授、52年10月富山大学教授(人文学部)に昇任、この間、昭和60年5月から富山大学評議員を併任、現在に至っています。専門は中国文学。



### 学生部長の改選



本田 弘学生部長の任期が、昭和62年5月8日に満了することに伴う次期学生部長候補者の選考は、3月17日開催の評議会において教務委員会及び補導協議会の合同委員会から推薦のあった3名の本学教授のうちから投票によって行われ、教養部龍澤 弘教授が選出されました。任期は昭和62年5月9日から2年間。

退職（予定）者を囲む懇談会

昭和61年度に定年（停年）又は勸奨により退職される方々を囲む懇談会が、去る3月12日(木)11時から事務局大会議室において開催されました。

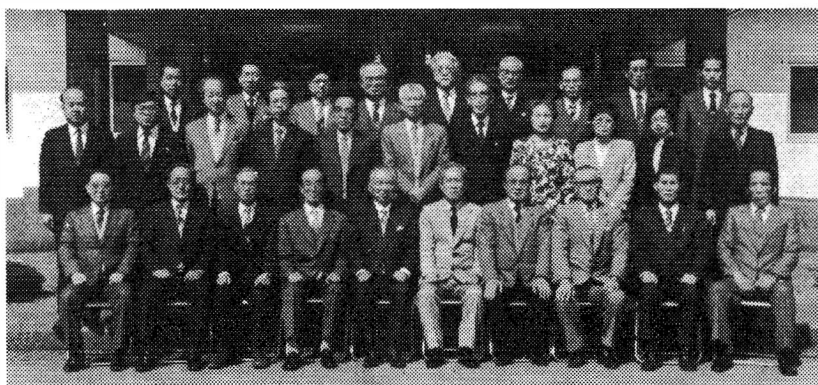
懇談会に先立ち、記念品の贈呈、学長挨拶、退職(予定)者代表の謝辞、記念撮影が行われたあと懇談会に入りました。

懇談会は、終始和やかな雰囲気のうちに行われ、学長をはじめ各部局長等から、永年の労がねぎらわれました。

なお、退職（予定）者は次のとおりです。

庶務部 文部事務官 高安芳枝  
 教育学部 文部教官 石原ミキ  
 教育学部附属中学校 " 紺道正子  
 経済学部 文部事務官 早崎寛威

経済学部 文部事務官 藤田信二  
 理学部 文部教官 中川正之  
 " " 児島毅  
 " " 小林貞作  
 工学部 " 井村定久  
 " " 若林嘉一郎  
 " " 塚島寛  
 " " 白鳥一  
 " " 齊藤仁代  
 " " 高森三郎  
 " 文部事務官 川原富雄  
 " 文部技官 竹林信儀  
 元工学部 " 清水とし子  
 経営短期学部 文部事務官 竹岡環



海外渡航者

渡航の種類	所属	職	氏名	渡航先国	目的	期間
外国出張	教養部	助教授	溝口 常俊	アメリカ合衆国	日米教育文化協力事業共同研究による「地域の人口と発展：濃尾地方の総合的分析-1700~1900-」の調査及び発表	62. 3. 15 } 62. 3. 22
	人文学部	教授	藤井 一行	連合王国, フランス, スイス, イタリア, ユーゴスラビア, ハンガリー, オーストリア, チェコスロバキア, ポーランド, ドイツ連邦共和国	西欧・東欧諸国におけるロシア・マルクス主義の受容・研究状況に関する調査	62. 3. 23 } 62. 5. 22
海外研修旅行	教養部	教授	中越 矩方	オーストリア	数学特に整数論についてグラーツ大学で共同研究を行うため	62. 3. 26 } 62. 4. 30
	教育学部	助教授	渡辺 信	アメリカ合衆国 大韓民国	単細胞緑藻の微細構造の研究	62. 3. 30 } 63. 3. 29

## 学内レクリエーション〈囲碁大会〉

本学レクリエーション委員会倶楽部会囲碁班主催による昭和61年度学内囲碁大会が去る3月14日(土)富山大学職員会館において、10名の参加により実施されました。

なお、成績は次のとおりです。

○ A クラス

優 勝 理学部 金坂 績

次 勝	理学部	松本賢一
三 位	経済学部	松嶋道夫
○ B クラス		
優 勝	学生部	金子哲夫
次 勝	〃	桜井雅和
三 位	〃	御福 隆

## 寄 稿

## クロズビーの意見

理学部助手 金森 寛

公害が大きな社会問題を引き起こし、重化学工業が往時の華かさを失って以来、化学関係学科の人気は下降線を辿っていった。近頃はバイオ人気につられて化学を志す人が増えつつあるように思われるが、これも1つの領域が脚光を浴びているにすぎず、化学全体としての地盤沈下はまだ回復していないようだ。化学の人気を引き戻すには中学、高校の時代からの化学教育が重要であるというのは言を待たない。日本化学会でもようやく1977年に化学教育賞を、1984年に化学教育有功賞を設立し、化学教育に力を入れ始めた。これは大学は本来、教育と研究の二つの使命を持つということから考えれば遅すぎた設立であるかもしれないが、化学教育の大切さが認められてきたことは好ましいことである。しかし今だに大学における教育と研究は、ともすれば二律背反する問題として捉えられ、研究に重点を置くあまり教育が軽視される風潮があることは否めない。

私は今回ワシントン州立大学で研究をする機会を得、1985年11月に渡米した。もちろん渡米の目的は研究であるが、アメリカで「教育と研究」という問題がどう捉えられているのかを知ることも大いに興味があった。そしてアメリカにも日本と同様の問題があるのを知ったのは、友達になったある教育助手 (Teaching assistant: TA) の言葉からであった。彼は「この大学は有名大学の仲間入りをしようとして研究に力を入れ過ぎている。もっと教育に力を入れるべきだ。」と大



化学教室の展示ケース、古い実験器具や薬品が飾られている。下の小さな写真はクロズビーの受賞の時のもの。

学のマネジメントについての不満を述べていた。しかしこの問題の背景はかなり複雑である。アメリカの名門大学はHarvard やYale 等に代表される私立大学でありアメリカとしては古い歴史を誇っている。国立は特殊なものを除いてほとんどなく、残りは比較的歴史の浅い州立大学である。しかし新しい州立大学でも有名大学になれるのである。カリフォルニア大学バークレー校やテキサス大学などは州立でも一級の大学である。裕福な州であるカリフォルニアやテキサスは、大学への豊富な資金援助により私立大学に伍する有名大学に仕上げたのである。大学の名声を高める手っ取り早い方法は例えばノーベル賞受賞者など著名な研究者を集めることである。アメリカの教授の給料は日本の

国立大学の教授のように一律ではなく州によってまた大学によってかなり開きがある。従って高級を与え、研究設備を整えることで他大学の著名な研究者を比較的簡単に引き抜くことができるのである。格段の条件を与えられれば、ドライなアメリカ人ならずとも母校への愛着心など振り切ってしまうのが人の常であろう。有名な教授陣をそろえれば、そこには優秀な学生が集まり、必然の結果として大きな業績が得られる。業績は大学の最大の宣伝材料となる。こうなれば高きに流れるがごとく、ますます優秀な研究者、学生が集まり、自然とその大学の評価は高まっていく。さらにアメリカでは就職（大学企業にかかわらず）に際し、コネが非常に重要な働きをするのでこの傾向にはますます拍車がかかる。私の住んでいたワシントン州は残念ながら貧乏な州であり、教授達はその給料の低さをいつも嘆いていた。また私の滞在中も生化学の著名な教授が他州の大学へ好条件で引き抜かれていくという新聞記事を目にした。このように有名大学への第一歩は優れた研究者を集め業績を上げさせることなのである。これは日本で新設私立高校が名を上げるために野球部に金をつぎ込み甲子園への出場をめざすのとよく似た発想である。どの大学もそのランクを少しでも上げたいのは当然のことであるから大学は勢い研究面に重点を置くことになる。事実一流校ほど研究面に重点が置かれ、ランクが下がるに従って教育面の比重が高いというのがアメリカでの一般的な見方なのである。

大学では研究が中心となり教育が軽視されるというのは個々の研究者の立場に立ってみてもそれなりの理由がある。アメリカの大学の先生の職階はProfessor（教授）、Associate Professor（準教授）、Assistant Professor（助教授）となっているが、若い研究者にとって最も大事なものはtenure（終身雇用の保証）を得ることである。講義が上手か下手かというのは客観的には評価しにくい問題であるので大学側が教官にtenureを与えるかどうかという目安にはどうしてもその人の研究業績が中心となるようだ。また高額の研究設備を必要とする理科系の分野ではグラントが取れるかどうかということも大きな問題である。さらに9ヶ月分の給料しか支給されないアメリカのシステムでは夏休み3ヶ月間の自分の給料を捻出してこななければならない、これはまた生活上の問題でもある。グラントは研究に対して与えられる基金であるから、当然のことながら研究業績の評価が最大の決め手となる。となると特にまだ研究に対する一般的な評価が定まっていな

い若手研究者は研究に集中せざるを得ない。このようにグラント制度は研究を活性化させる点では大いに貢献しているようだが、問題がないわけではない。その最大のものはグラントを取りやすい研究テーマを選ぶことで研究に流行ができてしまいバラエティーが少なくなってしまうことであろう。これは例えばアメリカ化学会から発行されている雑誌の1つであるInorganic Chemistryの過去10年ぶんを眺めてみればすぐにわかる。ある1つのテーマについて10年間こつこつと継続されてきた研究というのはほとんどなく、二、三年の周期で研究対象、研究手段の流行が移り変わっている。さらに比較的短期間で目を引くような成果を上げるためにどうしても地味で基礎的な研究はとり残されていくことになる。この傾向はアメリカの経済的な落ち込みが深まるとともに顕著になり、特にレーガン政権になってからは研究基金の予算削減により基礎分野はますますさびしくなっている。私の研究分野と関係が深い研究をしているピッツバーグ大学のある教授は10年前には第一線の研究者として華々しく活躍しておられ、教育面でもすぐれた教科書の著者として多大な貢献をしてこられた。しかし最近では研究分野の流行の変化とともに業績も少なくなり、ここ5年間ほどはグラントも取れないことを知り、アメリカ社会の競争の厳しさを感じるとともに一抹のさびしさを感じた。彼は過去の業績により70才まで勤めることを認められているそうだが、63才で退官することにしたい。その理由として彼は健康上の問題を上げておられたが、イギリスから渡ってきた彼にはアメリカのあまりに厳しい競争社会が肌に合わなかったのかもしれない。このような点を考えれば日本の広く薄い研究費配分にも利点はありそうである。

少し話が寄り道してしまったが、以上の様なことからアメリカの大学では研究に重点を置かざるを得ないというのが実情である。しかし研究と教育は本当に相反するものであろうか。私の恩師の先生であり、日本の錯体化学の基礎を築かれた槌田龍太郎博士は「研究をしていないものに教育はできない。」と言われたそうである。アメリカの教授達はどうか考えているのだろうか。私にとって幸運だったのは1985年のアメリカ化学会化学教育賞を受賞したグレン・クロズビー博士が同じ化学科におられ、折りにふれて彼の意見を知ることができたことである。クロズビー博士はアメリカ人としては小柄なほうでいつも難しい顔をして歩いておられた。気難しそうな先生だからあまり近づかないでおこうという

のが私の最初の印象であった。彼は教育者としてだけでなく研究者としての評価も高く化学科でグラントをたくさん取ってくる人の一人である。その彼が大学で一般向けの演示実験を行うというので、あの難しそうな先生がどんなことをするのだろうかという興味を持って私も行くことにした。題は確か「無機化学における色」といったものであった。実験の内容そのものは化学発光や炎色反応などさして目新しいものはなかったが、一番驚いたのはショウ（それはまさしくショウであった）が始まってからの普段の彼からはとても考えられないようなショウマンシップぶりであった。そこでのクロズビーはまさに一流の手品師であり、エンタティナーであった。彼が一番力を入れていたのは化学現象をいかに楽しく見せるかにあったと思う。なかでも圧巻は化学発光の実験であった。通常よくやるように試験管に発光物質を入れ、「ほら光っているでしょう。」と言って見せるのではなく、彼の場合は自分の身体に発光物質を塗り、自らが発光人間となって舞台でおどけて見せるというものであった。約一時間にわたるショウはあっという間に終わり、観客は化学の楽しさを十分満喫したようであった。そこで彼が見せたものは如何にして人を魅きつけ、楽しませ、わかりやすく見せるかというものであったと思う。ロスアンゼルスオリンピックの開会式で見せたアメリカ人のショウマンシップをクロズビーの演示実験で再び見ることができた思いであった。しかしまた同時に、これは日本人にはちょっと真似できないなというのも正直な感想であった。

しばらくしてニューメキシコ大学で開かれた「大学における教育に関する会議」でのクロズビーの発言が大学新聞に掲載された。ヘッドラインにはこう書かれていた。“Conflict between teaching and research is unnecessary, researcher says” これはまさに私が考えてきた問題であり、大いに興味を持ってその紙面を読んだ。以下に彼の意見を要約してみよう。

「研究と教育に関する問題は教育の目的がより深く理解されれば解決されるであろう。教室での講義の目的は学生が自分自身でその分野を学べるように鼓舞することである。あまりに多くの人々が、教室での時間は“理論や知識の集成”を学生に伝えるのに使われるべきだと考えている。しかし学生が習熟する必要のあ

る知識や学問分野をすべて教えられるだろうか。学生を、知識を吸収するというような受動的なことにではなく、研究を進めて行く時のように能動的な探求や発見に従事させなければならない。この点から言えば、研究者として成功した者は教室でも最高のガイドとされる筈である。優秀な教師というのは方法論を伝え、またその学問分野に深くかかわった者としてその学問の論理構造を教える人間でなければならない。我々は実験的な手法を、新しい知識の深求を、発見と冒険の精神を、まさに教室の中に、まさに教えるというプロセスの中に持ち込まねばならない。そうすれば世間で言われているような大学における研究と教育の機能の対立といった問題は消える。」

これはまさに大学における理想的な教育方法であろう。しかしまた、化学という分野は数学や物理に比べて「知識の集成」が重要な分野でもあるように思われる。1つ1つの試薬の性質を知らなければ合成はできないであろう。クロズビーの意見を読んで、その教育理念には賛成するのだが、化学教育の具体的な方法論となると私自身まだ結論を出せないでいる。

私が師事していたレグ教授は今年 Dean (学部長)として大学を移ることになった。アメリカではDeanやProvost (教務部長)は本当の意味でのマネジャーであり研究はほとんど行なわないのが常である。Deanになれば管理職としての仕事が忙しく研究は止めざるを得ないであろうが、講義の質を維持するためにも最低限の研究は続けたいというのが彼の希望であった。彼は大学に職を得た時、1年間クロズビーの講義を聴講して彼の教授法を学んだそうである。ちなみにレグ教授も学生による講義内容の採点では常に高得点を得ている熱心な教育者である。

最後にもう一度クロズビーの意見の一部を原文のまま引用してみたい。

“We are experimental and daring in the research laboratory. Why are we so stuffy and conservative in the classroom?”

▶筆者は、文部省在外研究員(甲種)として、昭和60年11月1日から昭和62年2月1日まで10か月間遷移金属錯体の分光学的研究のためアメリカ合衆国へ外国出張されましたので、特に寄稿を御依頼したものです。

\*\*\*\*\*

## 職 員 消 息

\*\*\*\*\*

《新任者住所》

教諭(社会)

教育学部

助 教 授 松井 政明  
(社会科教育)

附属中学校 此川 佳子  
教諭(家庭)

助 教 授 呉羽 長  
(国文学)

附属幼稚園 古川真利子  
教 諭

講 師 諸岡 晴美  
(被服学)

附属養護学校 近江 幸人  
教 諭

事務補佐員 黒澤 浩子

” 堀田 清子

臨時用務員 岡本 一雄  
(作業員)

” 松本 良子

技能補佐員 田上 進  
(汽かん士)

” 松田 由美

附属小学校 長原 好成  
教諭(理科)

” 六渡ひと美

” 田上 修一  
(数 学)

経済学部

教 授 日水 俊夫  
(理論経済学)

附属中学校 平崎 和則

講 師 長井 長信  
(基礎法)

工 学 部

教 授 中山 剛  
(情報処理)

助 手 茂垣 広志  
(経営学)

文部事務官 光澤 和嗣  
(庶務係)

助(経営学)手 谷本 雅之

文 部 技 官 山田 聖  
(工場係)

事 務 長 平岡 幸一

事務補佐員 中波 憲子  
(制御工学)

附属図書館

文部事務官 橋本 美紀  
(庶務係)

総 務 係 長 今井 稔

文部事務官 片桐 茂  
(会計係)

事務補佐員 二口 真也  
(参考係)

事務補佐員 河崎多紀子

事務補佐員 塚本 真理  
(受入係)

—職員会館の宿泊の御案内—

- ◎利用日……土・日曜日及び祝日も利用できます!!
- ◎申し込み…利用日の2日前までに!!
- ◎門限時刻…午後10時……御協力を……!!

- ◎ 構内での自動車等の運転は、教育・研究に支障を来さないよう安全運転に努め定められた交通方法、歩行者の安全及び騒音防止に努めましょう!!



主 要 行 事

**本 部**

- 3月2日 第29回北陸5大学施設担当者協議会  
(於：富山医科薬科大学)
- 2～4日 北陸地区国立5大学合同健康増進合宿セミナー
- 3日 部課長会議  
第18回事務協議会
- 5～6日 富山大学入学者選抜試験
- 12日 退職予定者との懇談会
- 13日 第2回低温液化室運営委員会  
第11回学長選考基準検討委員会
- 17日 第6回大学院委員会  
第12回評議会
- 18日 放射性同位元素委員会  
富山大学入学者選抜試験合格者発表
- 20日 第6回総合大学院検討委員会自然科学部会
- 20～24日 理学部定員一部留保第2次募集受付
- 23日 第6回会計係長会議
- 23～25日 富山大学入学手続
- 24日 部課長会議  
第9回事務協議会  
構内交通対策委員会
- 25日 昭和61年度卒業証書、修了証書並びに修士  
学位記授与式(於：富山市公会堂)  
名誉教授との懇談会(於：富山市公会堂)
- 26日 第4回国際交流委員会
- 30日 理学部室員一部留保第2次募集合格者発表

**人 文 学 部**

- 3月
- 2～3日 事務連絡会
- 12日 時間割担当者会議
- 16日 教授会
- 19日 学部将来計画委員会

事務連絡会

- 20日 真率会送別会(於：学生会館)
- 24日 教授会  
人事教授会
- 25日 学部卒業証書並びに文学専攻科修了証書授  
与式  
学部卒業・文学専攻科修了祝賀会  
(於：富山県民会館8階キャッスル)

**教 育 学 部**

- 3月3日 人事教授会
- 11日 学部教務委員会  
人事教授会
- 12日 附属養護学校卒業式
- 13～19日 スキーII実習(於：志賀高原発哺スキー場)
- 14日 附属小学校卒業式
- 16日 学部教務・補導合同委員会  
教授会  
附属幼稚園卒業式
- 17日 附属中学校卒業式
- 18日 附属幼稚園第3学期修業式
- 20日 退官者送別会(於：富山ステーションホテル)  
附属中学校、附属養護学校第3学期修業式
- 23日 附属小学校第3学期修業式
- 30日 教授会

**経 済 学 部**

- 3月2日 財務委員会
- 4日 学部将来構想検討委員会  
学部図書委員会
- 5日 昭和62年度私費外国人留学生入学試験選考  
委員会
- 10日 各種委員選考委員会

11日 学部入学方法検討委員会  
 12日 新陸会幹事会  
 16日 学部教務委員会  
 教授会  
 23日 学部施設整備委員会  
 26日 財務委員会（持ち回り）  
 27日 短大事務引き継ぎ打合せ会  
 31日 短大事務引き継ぎ

### 理 学 部

3月2日 学科主任会議  
 学部教務委員会  
 事務連絡会  
 3日 事務連絡会  
 4日 学科主任会議  
 16日 教授会  
 大学院理学研究科委員会  
 人事教授会  
 19日 事務連絡会  
 20日 真率会送別会（於：学生会館）  
 20～24日 物理学科定員一部留保第2次募集願書受付  
 25日 学部卒業証書並びに理学研究科修士学位記  
 授与式（於：理学部第10講義室）  
 26日 入学者選抜調査書審査（第2次募集）  
 30日 教授会  
 人事教授会  
 大学院理学研究科委員会  
 物理学科定員一部留保第2次募集合格者発  
 表

### 工 学 部

3月2日 入学試験説明会  
 教授会  
 学科主任会議  
 選考委員会  
 3日 専任教授会  
 9日 入学試験検討委員会  
 16日 教授会  
 工学研究科委員会  
 専任教授会

18日 選考委員会  
 24日 電気事業法の規定に基づく主任技術者の資  
 格等認定学校の立入調査

### 教 養 部

3月4日 補導委員会  
 11日 教務委員会  
 人事教授会  
 教授会  
 13～19日 スキー実習（於：志賀高原スキー場）  
 18日 将来計画委員会

### 附 属 図 書 館

3月6日 小ワーキンググループ打合せ会  
 10日 商議会  
 16日 電算化ワーキンググループと富士通SEと  
 の打合せ会  
 16～24日 図書点検（教養部）  
 30日 係長事務打合せ会

### トリチウム科学センター

3月25日 昭和61年度第7回富山大学トリチウム科学  
 センター運営委員会

### 保健管理センター

3月  
 2～4日 昭和61年度北陸地区国立5大学合同健康増  
 進合宿セミナー  
 （於：極楽坂スキー場やまふじ山荘）  
 5日 昭和62年度富山大学入学者選抜健康診断  
 （再診断）

### 経営短期大学部

3月9日 富山大学経営短期大学部事務部解散式

12日 「短大のあゆみ」編集委員会  
 19日 教授会  
 23日 学部財務委員会

31日 教授会（持ち回り）  
 短大廃止に伴う事務引継

資 料

昭和61年度卒業（修了）者数

・学 部

昭和62年3月25日付

学 部	学科（課程）	卒 業 者 数
人文学部	人 文 学 科	72
	語 学 文 学 科	93
	計	165
教育学部	小学校教員養成課程	137
	中学校教員養成課程	47
	養護学校教員養成課程	19
	幼稚園教員養成課程	29
	計	232
経済学部	経 済 学 科	105
	経 営 学 科	120
	経 営 法 学 科	58
	計	283
理学部	数 学 科	36
	物 理 学 科	37
	化 学 科	38
	生 物 学 科	35
	地 球 科 学 科	28
	計	174
工学部	電 気 工 学 科	41
	工 業 化 学 科	43
	金 属 工 学 科	27
	機 械 工 学 科	55
	生 産 機 械 工 学 科	38
	化 学 工 学 科	31
	電 子 工 学 科	39
	計	274
合 計	1,128	

・大学院

昭和62年3月25日付

研 究 科	専 攻	修 了 者 数
理学研究科	数 学 専 攻	2
	物 理 学 専 攻	8
	化 学 専 攻	2
	生 物 学 専 攻	3
	地 球 科 学 専 攻	4
	計	19
工学研究科	電 気 工 学 専 攻	7
	工 業 化 学 専 攻	7
	金 属 工 学 専 攻	9
	機 械 工 学 専 攻	7
	生 産 機 械 工 学 専 攻	2
	化 学 工 学 専 攻	8
	電 子 工 学 専 攻	12
	計	52
合 計		71

・専攻科

昭和62年3月25日付

専 攻 科	修 了 者 数
文 学 専 攻 科	1
教 育 専 攻 科	3
経 済 学 専 攻 科	1
合 計	5

・経営短期大学部

昭和62年3月25日付

専 攻	卒 業 者 数
経 営 管 理 専 攻	38
経 営 法 律 専 攻	28
合 計	66

## 昭和62年度授業日程表

学部等	前 学 期		夏季休業	後 学 期		冬季休業	備 考
	授業(補講を含む)	期末試験		授業(補講を含む)	期末試験		
教養部	4/11~7/14, 9/1~9/14	9/16~9/29	7/15~8/31	10/15~12/23, 1/11~2/17	2/18~2/26	12/24~1/10	
	4/11~7/10, 9/1~9/18	9/21~9/29	7/11~8/31	10/15~12/23, 1/11~2/17	2/20~2/26	12/24~1/10	経済学部夜間主コース
人文学部	4/13~7/11, 9/1~9/14		7/12~8/31	10/14~12/22, 1/11~2/13		12/23~1/10	集中講義 7/13~7/18 9/16~9/22 2/21~12/26 2/15~2/20
教育学部	4/6~7/15	7/16~7/22	7/23~8/31	10/20~12/21, 1/8~2/15	2/16~2/22	12/22~1/7	教育実習9/1~10/19
経済学部	4/8~7/14, 9/1~9/9	9/10~9/19	7/15~8/31	10/15~12/23, 1/7~2/13	2/15~2/23	12/24~1/6	昼間主コース
	4/11~7/10, 9/1~9/19	9/21~9/29	7/11~8/31	10/15~12/23, 1/11~2/18	2/20~2/27	12/24~1/10	夜間主コース
理学部	4/13~7/11, 9/1~9/14		7/12~8/31	10/15~12/23, 1/11~2/13		12/24~1/10	物理学基礎実験 7/13~7/18 化学実験 9/16~9/22 生物学実験 4/6~4/11 地球科学実験 10/7~10/14
工学部	4/15~7/14, 9/1~9/21		7/15~8/31	10/16~12/24, 1/11~2/20		12/25~1/10	
経営短大	4/11~7/10, 9/1~9/19	9/21~9/29	7/11~8/31	10/15~12/23, 1/11~2/18	2/20~2/27	12/24~1/10	

## 編 集 後 期

昭和56年3月号以来6年間親しまれた学報表題を今号から、新たに大井信一学長に題字を書いていただいたものを今後使用させていただきます。

従来のものは、表紙デザインを元教育学部小倉玄吾教授に考案いただいたもので、長年使用させていただき、ここに深く感謝いたします。

◎ 退庁、退室の際には、戸締りの徹底・電気、ガスの消し忘れ、タバコの吸殻の後始末に十分注意し、盗難の防止・火災の予防に心がけましょう!!

◎ 電気、ガス、水の省エネ・省資源に協力しましょう!!

編 集 富山大学庶務部庶務課  
富山市五福3190  
印刷所 あげほの企画株式会社  
富山市住吉町1丁目5-18  
電 話 (24) 1755(代)